医学部（医学科）の3つのポリシー　　【 学士（医学） 】

大学の目的 （学則 第3条）
本学は，地域と世界に向かって開かれた大学として，生命科学，自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い，人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し，地域と国際社会に貢献するとともに，科学，芸術文化，人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的 （学部規則等から抜粋）
医学部では，生命の尊厳を理解し，医療人として不可欠な深い倫理観と温かい人間性を備え，専門的知識及び技能を生涯にわたって維持し向上させる自己学習の習慣を持ち，国際的視野に立って医学，医療の発展，及び地域医療等の社会的ニーズに対応できる人材を養成することを目的とする。 医学科では，日々進歩する医学の知識，技術を身につけ，医師・医学者として，豊かな人間性を備えた医療の実践及び医学の発展に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【卒業認定・学位授与方針】 医学部医学科では，十分な学修成果を上げ，以下に示す「幅広い知識」，「専門的学識」，「問題発見・解決力」，「社会貢献力」，「コミュニケーション能力」を身に付けた者に，学士（医学）の学位を授与する。	【教育課程編成方針】 医学部医学科では，卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる5つの能力を学修するために，次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施する。 【教育課程実施方針】 ・6年間を通じて，能動的に医学を学修する。 ・1年次において，幅広い知識を学修する。 ・2年次において，医師として必要とされる「ヒトの構造と機能の正常と病態の基礎」を能動的に学修する。 ・3～4年次において，医師として必要とされる「臨床医学の基礎」と「社会における医学の基礎」を能動的に学修する。 ・4～6年次において，「ヒトの構造と機能の正常と病態」「臨床医学の基礎」「社会における医学の基礎」の学修成果を応用して，診療の基本を学修する。	【入学者受入れの方針】 生命の尊厳を理解し，医療人として不可欠な倫理観と温かい人間性，専門性を備え，専門的知識及び技能を生涯にわたって維持し向上させる自己学習の習慣を持ち，国際的視野に立って医学，医療の発展，及び地域医療等の社会的ニーズに対応できる人材を求める。 【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】 一般選抜（前期日程） 大学入学共通テストでは，高等学校等での学修の達成度を評価する。 本学で課す「数学」，「理科」，「外国語」により，医学を学ぶための基礎学力に加え，自然科学や多様な情報に対する深い洞察力，思考力，表現力を評価し，「面接」により課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価する。 総合型選抜 高等学校等での学修の達成度をみるために大学入学共通テストを課す。本学で課す「面接」と「小論文」により，課題を解決しようとする意欲とコミュニケーション能力に加えて，社会への関心，とくに地域社会への関心と意欲を評価する。 学校推薦型選抜Ⅱ 高等学校等での学修の達成度をみるために大学入学共通テストを課す。本学で課す「面接」と「小論文」により，課題を解決しようとする意欲とコミュニケーション能力に加えて，社会への関心，とくに地域社会への関心と意欲を評価する。 帰国生徒選抜 本学で課す「数学」，「理科」，「外国語」により，医学を学ぶための基礎学力に加え，自然科学や多様な情報に対する深い洞察力，思考力，表現力を評価し，「面接」により課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価する。 私費外国人留学生選抜 日本留学試験では，日本語力，理科及び数学の基礎的学力を評価する。 本学で課す「数学」，「理科」，「外国語」により，医学を学ぶための基礎学力に加え，自然科学や多様な情報に対する深い洞察力，思考力，表現力を評価し，「面接」により課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価する。 【入学前に学習すべきこと】 医学科では，自然科学系に加え，医療情勢に関する関心やコミュニケーション能力が要求されるため，入学までに，化学，物理学，生物学，数学，語学の基礎学力を付けておくとともに，医療を取り巻く社会情勢を学んでおくことが望ましい。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
幅広い知識	【学修成果】 医師としての目標と世界への幅広い関心と知識を持ち，実現のために自ら考え，自分の行動には責任が伴うことを自覚することができる。 【到達指標】 教養教育科目の卒業要件単位を修得している。	【学修内容】 情報化社会への対応、国際化社会への対応、社会的変化への対応、自然科学、社会科学、人文科学、総合科目、理系基盤科目の履修を通して，人（ヒト）と社会の広範な理解のための基本的視点と考え方を学ぶ。 【学修方法】 多様な授業のレパートリーの中から，能動的に選んだ授業を学ぶ。専門の基礎となる科目を必修とし，2年次以降への橋渡しとして学ぶ。 【学修成果の評価方法】 幅広い知識を修得できているかを確認する試験を行う。	【求める資質・能力】 確かな基礎学力に基づく豊かな教養を身に付け，幅広い視野を有する者
専門的学識	【学修成果】 医師として必要とされる医学の体系的な知識や学修成果を持ち，状況に応じて総合的に活用し，新しく更新をすることができる。 【到達指標】 専門教育科目（講義及び実習）の卒業要件単位を修得し，医師として必要な知識と技能を身に付けている。	【学修内容】 医学と医療の現場で求められる知識と技能の修得のための専門教育科目（各授業科目を分野ごとに7つのユニットに分類）を，体系性と順序性に基づいて2年次から4年次に配置する。 【学修方法】 深い知識を学ぶために，授業形式の科目を実施する。主体的な学びの力を高めるために，アクティブラーニングを取り入れた手法を実施する。 【学修成果の評価方法】 専門的な知識を修得できているかを確認する試験を行う。	【求める資質・能力】 知的好奇心が高く，旺盛な学習意欲と医学的専門知識と技術の修得に意欲を持つ者
問題発見・ 解決力	【学修成果】 医師として医学や医療の現場の諸問題についての問題を発見・理解し，問題解決に必要な論理的・実践的知識及び資源を活用して情報収集や情報分析ができ，解決のアイデアを構想する思考力や判断力を身に付け，適切な方法を選択・計画し，行動することができる。 【到達指標】 「基礎医学統合」「臨床医学統合」「研究室配属」「臨床実習」「選択制臨床実習」の卒業要件単位を修得し，能動的な取り組みを身に付けている。	【学修内容】 「基礎医学ユニット」の中における科目「基礎医学統合」と「全身横断ユニット」の中における「臨床医学統合」において，分野を横断する理解を促すために準備された統合型の科目の中で，能動的な学修を行い，問題の発見と専門的知識の適用による解決を学ぶ。「研究室配属」において医学研究の適用による問題解決を学ぶ。「臨床実習」「選択制臨床実習」において，医療の実際の中で問題がどの様に解決されていくかを学ぶ。 【学修方法】 主体的な学びの力を高め，分野を横断する理解を促すために，統合型の科目で少人数グループのアクティブラーニングを取り入れた学修を実施する。 【学修成果の評価方法】 能動的な問題解決を評価するために，プレゼンテーションと議論を課し，評価する。	【求める資質・能力】 自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と探究心を持ち，問題解決の持続した行動力を有する者
社会貢献力	【学修成果】 協調的に公平に行動することができる。 医師の役割と責任を理解し，倫理観を持って地域と国際社会のために行動することができる。 【到達指標】 「医学概論」と「社会医学ユニット」の科目の卒業要件単位を修得している。	【学修内容】 専門教育科目の「医療プロフェッショナリズムユニット」の中の「医学概論」と「社会医学ユニット」の中の科目で，社会の中における医学と医療を学ぶ。 【学修方法】 深い知識を学ぶために，講義形式の科目を実施する。主体的な学びの力を高めるために，「医学概論」と「社会医学実習」において少人数グループのアクティブラーニングを取り入れた学修を実施する。 【学修成果の評価方法】 専門的な知識を修得できているかを確認する試験を行い，不合格の者には再試験を課し，その合格を求める。臨床実習開始前の共用試験の合格を求める。能動的な問題解決を評価するために，「社会医学実習」における報告書の作成，プレゼンテーションと議論を課し，評価する。	【求める資質・能力】 地域の問題を理解し地域医療の貢献に意欲を持つと共に豊かな国際的視野を有する者
コミュニ ケーション能力	【学修成果】 他人の思いや考えを受け止めて理解するとともに，自分の思いや考えを表現し，意見を交わすことができる。 医師として言語的又は非言語的な手段を通じて，多様な人々と意思疎通することができる。 自分の疑問や意見をまとめて，他者の意見と交換し，調整することができる。 【到達指標】 「医療プロフェッショナリズムユニット」の中における「コミュニケーションとチーム医療」や「基本診療ユニット」と「臨床実習」，「選択制臨床実習」，「医学英語」の科目の卒業要件単位を修得している。	【学修内容】 「医療プロフェッショナリズムユニット」の中における「コミュニケーションとチーム医療」や「基本診療ユニット」と「臨床実習」「選択制臨床実習」において，医学における幅広い知識と専門的な深い知識がコミュニケーションの中で適用される過程を学ぶ。語学の中の「医学英語」において医学における母国語以外でのコミュニケーションを学ぶ。 【学修方法】 主体的な学びの力を高めるために，「臨床実習」において少人数グループの学修とアクティブラーニングを取り入れた手法を実施する。 【学修成果の評価方法】 専門的な知識と技能を医学と医療のコミュニケーションの現場において適用できているかを評価するために，臨床実習後の到達度評価OSCEを実施する。	【求める資質・能力】 周囲に対する協調性や思いやりの心を持ち，多様な価値観を受け入れる素養を有する者